

平安先生Q、「県教委としてどうか」県教委A、「最終的にどこまで進めかを教員に適切に
伝えていかねば逆効果がある。「寧ろ教育が必要」「より良く生き残る教育の1つとして内払い」

自殺対策に関する出前講座等について

(1) 自殺対策に関する出前講座メニュー案 ※別添参照

神奈川県では、自殺者数としては中高年層が多いものの、若年層の自殺者の割合は全国と比較して高く、学校において自殺対策に関する知識等の普及啓発を図ることが今後自殺予防に効果が見込まれることから、教職員の方々を対象とする研修会等を開催する際に活用していただけるよう、自殺対策に関する出前講座メニュー案を作成しました。

このメニュー案では、教職員の方々に、自殺の問題がいかに関心な問題であるかを、具体的な事例をとおして理解していただくよう、それぞれのテーマの中で、自殺対策に関する基礎的な知識についての話しを必ず盛り込むことにしています。

* 部会委員からのご意見・今後の課題について

対象について 生徒おこは早い意見

- ・まずは、教職員、その上で生徒を対象にしていく。

講座の実施時間について

- ・60分か、長くて90分なら計画を立てられる学校もある。長期休業中で90分～120分はあるが参加者は少なくなる。
- ・時間的にかなり厳しいが、やり方により90分でも可能

内容について

- 重視 ☆
- ・なぜ今自殺か、自殺の問題がいかに関心な問題であるかを具体的事例を通じて教職員の方々に知っていただくようにしないと受け入れられないのでは。
 - ・教職員の方々の立場に立って出前の押しつけにならないように。
 - ・実践的な内容であることが限られた時間では効果的
 - ・講師の話の内容に統一性を持たせる必要がある。

実施に当たって

- ・周知方法等を考えていく必要がある。
- ・事前に現場の先生方と打ち合わせをしてから実施するのがよい。
- ・先生方は自殺問題に関心がない訳ではない。ただ、問題のある生徒を自殺に結びつけることには慎重で抵抗があるため、アプローチの方法を考える必要がある。

今後の方向性について

- ・最終的に何をめざすのか。先生方にどう受け取って欲しいか。メッセージとして周知の段階から伝わらないと受け入れてもらえない。
- ・講座を聴いた先生が聴いた問題をどう利用し、発展させていけばよいかのかわからないとただ聴くだけになってしまう。

平安先生「今出前のどこまで進めかを教員に同時に、
将来親に存在としてアプローチすること
世代間の繋がりを断つこと」

自殺対策に関する出前講座メニュー案

対象者：教職員

コンセプト：1 情報の共有を図る（神奈川県と今どうかが違っているか）
2 自殺対策への意識を持っていただく
3 明日からできる即効性のある内容にする

講座のメニューの提示方法：2の各論テーマを提示し、選んでいただく。
その講座の中で1の基礎知識を必ず含むようにする。（パッケージ化）

実施時間：講座は60分～120分を基本とした単位とする。

1 自殺対策に関する基礎知識(共通) (※この講座は受講は必須)

		テーマ	目的	内容	講師
自殺対策基礎編	I	自殺の現状	何故、今、自殺対策が必要なのかを身近な感覚から理解する	自殺が増えた年の社会的事件 身近な疑問に対し実態を伝える	下記2の講師が併せて行う
自殺対策基礎編	II	自殺対策のために個人ができること	具体的に何が求められているかを理解し、行動への動機付けとなる	自分の心のケア、周りの人の心の状態に気づく、相談先を知りつなげる、見守る	

2 各論テーマ(選択制)

		テーマ	目的	内容	講師(団体名)
専門知識編	①	心の病の理解	自殺のリスクの高い心の病について知識を身につける	主にうつ病、統合失調症、発達障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立大学 ・神奈川県精神科病院協会 ・神奈川県精神神経科診療所協会
専門知識編	②	思春期の心(I)	一般的な思春期の心の発達について理解する	思春期の発達課題、対応	
専門知識編	③	思春期の心(II)	思春期に多い問題行動について理解する	摂食障害、リストカット等について	
専門知識編	④	傷ついた心のケアについて	身近で自殺を経験するなどにより心に傷を負った人のケアについて学ぶ	急性ストレス障害、外傷後ストレス障害等について	
専門知識編	⑤	司法で解決できること	背景にある家庭の問題への理解を深める	司法書士、弁護士の仕事の紹介 多重債務、借金問題等の解決方法	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜弁護士会 ・神奈川県司法書士会
相談技術初級	⑥	聴くということ	相談の心構えを知る	講義とグループワーク	横浜いのちの電話
相談技術上級	⑦	自殺予防相談	死にたいという気持ちにどう気付き、どう声を掛けるかなど対応を学ぶ	講義とグループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立大学 ・横浜いのちの電話

↑
からが4自殺対策タギ
メンバー

(2) 啓発用リーフレットについて

現在のリーフレット（「あなたに知ってほしい」）についての修正点や改善点等、対象を絞ったリーフレットの作成について検討しました。

* 部会委員からのご意見・今後の課題について

- ・現在のリーフレットについては、概ねよい反応
地域包括支援センターの問い合わせ先を載せた方がよい。
- ・対象を絞ったリーフレットについては、「何を伝えるか」が重要
例えば高齢者向けであれば、高齢者ならではの課題を踏まえた情報を伝えるなど。
- ・必要に応じて専門家等の意見を聞いて反映させるとよい。
- ・海外（英国）の若者向けパンフレットは CD ジャケット大でイラストも多く入っている。
若者向けにはセンスの良いものでないと見てもらえない。
- ・よいものであれば、作成してよいのでは。

<平成 21 年度 各機関・団体における主なリーフレットの活用状況>

機関・団体名	配布枚数	配布場所	その他感想要望等
神奈川産業保健推進センター	300枚	センター内 *研修など、センターに来所された方に渡す。	
横浜弁護士会		法律相談センターの受付窓口（本部及び支所）に設置	
神奈川県司法書士会	900枚	神奈川県司法書士会主催の各種相談会会場等	相談会において、啓発用リーフレットに関するアンケートを実施、概ね好評であった。
横浜いのちの電話	未定	検討中	21年度は電話相談室及び関係者に配布、22年度は配布先を広げたいと思う。
神奈川県教育委員会	① 164枚 ② 164枚 ③ 20枚	①②総合教育センター ③自治総合研究センター *配付対象は講演会参加者	
神奈川県経営者協会		協会会員	
神奈川県		各種会議、シンポジウム、講演会等で配布	
横浜市			
川崎市			